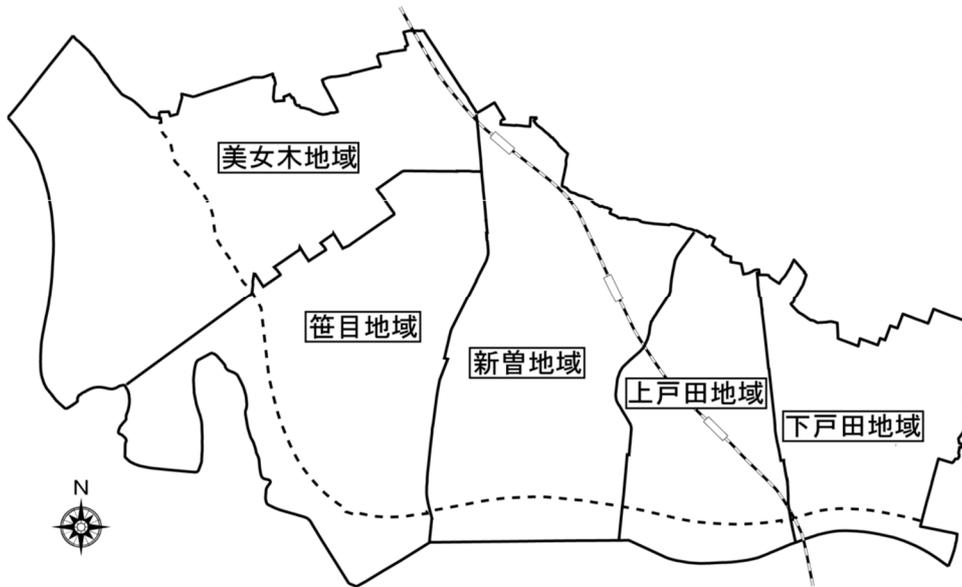


## 第5章 地域ごとの防災まちづくりの課題

これまでの分析結果から見えてきた課題について、『第2次戸田市都市マスタープラン（改定版）』で示した5つの地域ごとに現状と課題を把握・整理します。

図 5-1 地域区分図



出典：第2次戸田市都市マスタープラン（改定版）

なお、災害の種類による分類（A～H）については、5地域共通としており、各項目の内容は以下のとおりです。

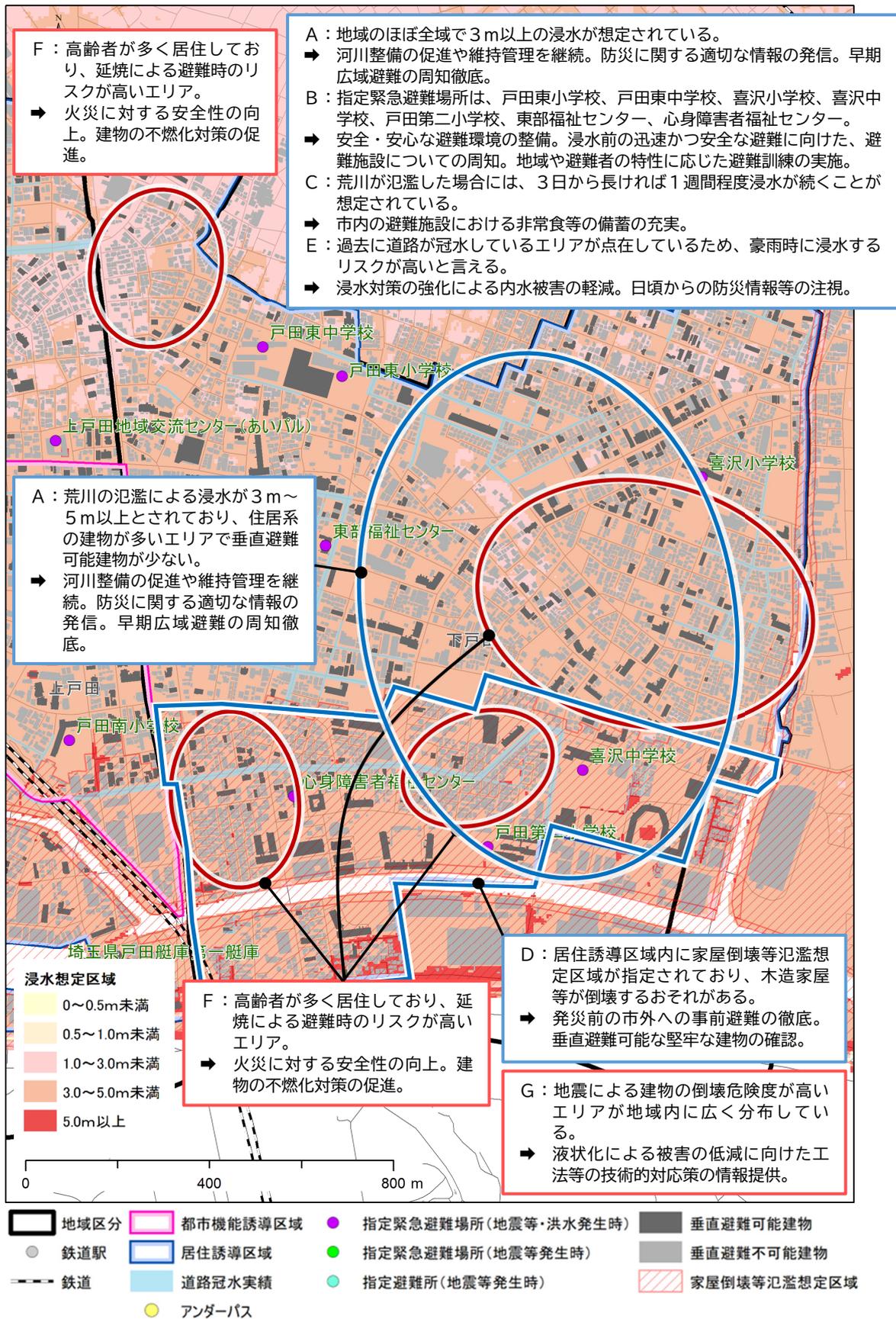
表 5-1 災害リスクの分類

災害の種類		リスク等項目
水災害	外水	A：浸水に係るリスクについて
		B：避難施設について
		C：浸水継続のリスクについて
		D：家屋倒壊のリスクについて
	内水	E：内水による道路の冠水リスクについて
地震災害		F：地震による火災のリスクについて
		G：液状化のリスクについて
共通		H：市民の避難行動や防災活動について

(1) 下戸田地域

災害	現状・問題	課題	
水災害(外水)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、地域のほぼ全域で浸水深 3.0m以上と想定されているため、2階建て以下の建物の居住者は、逃げ遅れた場合に命の危険がある。</li> <li>地区の東部は特に垂直避難可能建物が少ないエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川整備の促進や維持管理を継続し、災害時にも治水機能を発揮できる環境を整備。</li> <li>防災に関する適切な情報の発信。</li> <li>早期広域避難の周知徹底。</li> </ul>
	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外へ逃げ遅れた際の指定緊急避難場所として、喜沢小学校、喜沢中学校、戸田第二小学校、戸田東小学校、戸田東中学校、東部福祉センター、心身障害者福祉センターが指定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な避難環境の整備。</li> <li>浸水前の迅速かつ安全な避難に向けた、避難施設についての周知。</li> <li>地域や避難者の特性に応じた避難訓練の実施。</li> </ul>
	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、3日から長ければ1週間程度浸水が続くことが想定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の避難施設における非常食等の備蓄の充実。</li> <li>逃げ遅れた住民への備蓄品等の供給。</li> </ul>
	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住誘導区域内に家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、木造家屋等が倒壊するおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災前の市外への事前避難の徹底。</li> <li>垂直避難が可能な堅牢な建物の確認。</li> </ul>
水災害(内水)	E	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去に道路が冠水しているエリアが点在しているため、豪雨時に浸水するリスクが高いと言える。</li> <li>地形的な要因により、大雨や豪雨等で浸水しやすいエリアが点在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水対策の強化による内水被害の軽減。</li> <li>日頃からの防災情報等の注視。</li> </ul>
地震災害	F	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が多く居住しており、200棟以上の延焼クラスターが発生するとの予測もあるため、避難時のリスクが高いエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災に対する安全性の向上。</li> <li>建物の不燃化対策の促進。</li> </ul>
	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>全域で液状化等の影響による建物倒壊のリスクが高いエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液状化による被害の低減に向けた工法等の技術的対応策の情報提供。</li> </ul>
共通	H	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川氾濫時には、早期に市外への広域避難が必要である。</li> <li>河川における破堤や地震による火災等、災害発生から非常に短時間で被害拡大につながるおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前避難の徹底。</li> <li>戸田市ハザードブック等の情報確認。</li> <li>地域での避難訓練等の防災活動を継続。</li> </ul>

図 5-2 地域別の課題(下戸田地域)

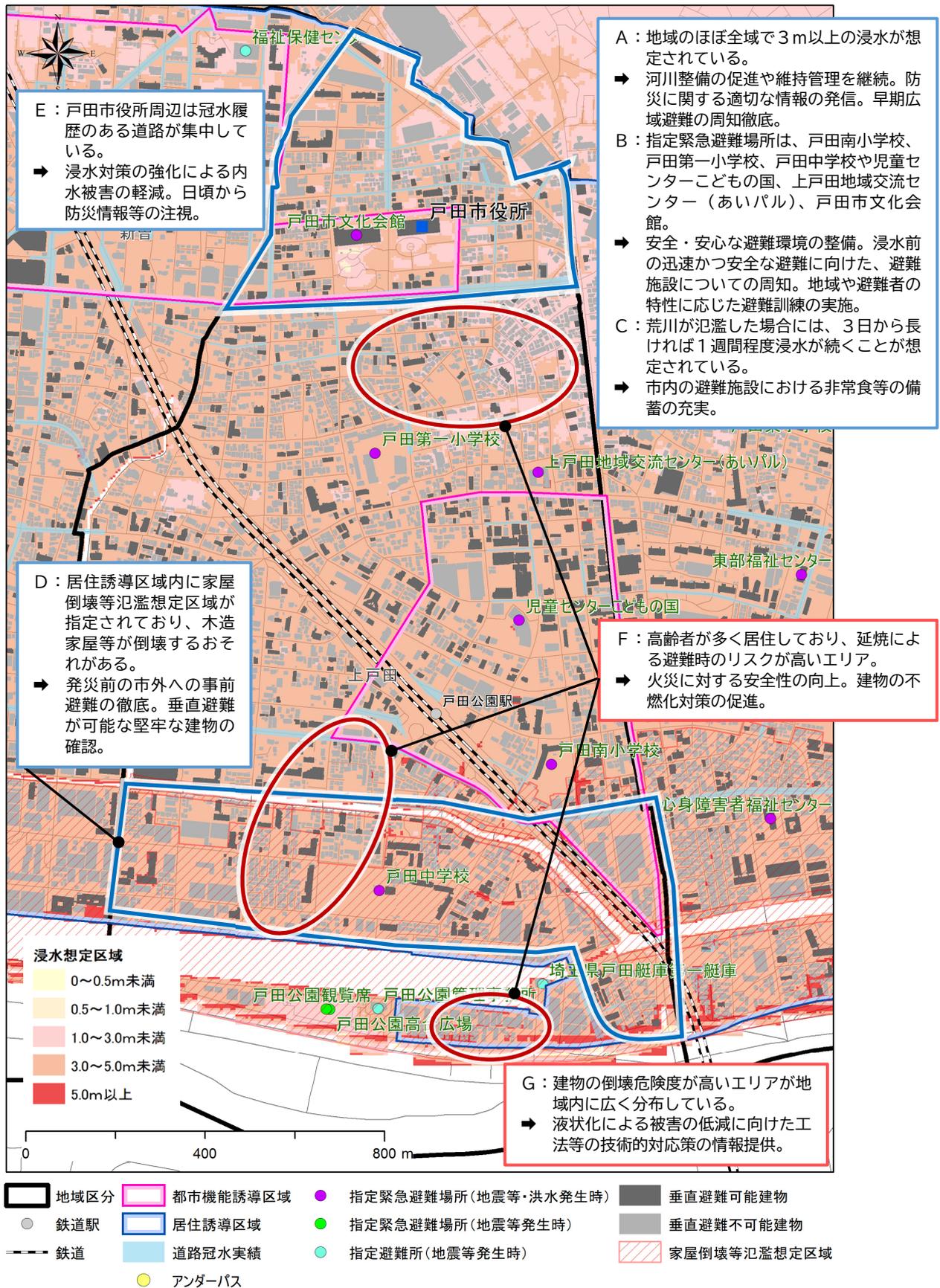


※ベース図は荒川の洪水浸水想定区域（最大規模）。以降同じ。

(2) 上戸田地域

災害	現状・問題		課題
水災害(外水)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、地域のほぼ全域で浸水深 3.0m以上と想定されているため、2 階建て以下の建物の居住者は逃げ遅れた場合に命の危険がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川整備の促進や維持管理を継続し、災害時にも治水機能を発揮できる環境を整備。</li> <li>防災に関する適切な情報の発信。</li> <li>早期広域避難の周知徹底。</li> </ul>
	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外へ逃げ遅れた際の指定緊急避難場所として、戸田南小学校、戸田第一小学校、戸田中学校や児童センターこどもの国、上戸田地域交流センター（あいパル）、戸田市文化会館が指定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な避難環境の整備。</li> <li>浸水前の迅速かつ安全な避難に向けた、避難施設についての周知。</li> <li>地域や避難者の特性に応じた避難訓練の実施。</li> </ul>
	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、3日から長ければ1週間程度浸水が続くことが想定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の避難施設における非常食等の備蓄の充実。</li> <li>逃げ遅れた住民への備蓄品等の供給。</li> </ul>
	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住誘導区域内に家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、木造家屋等が倒壊するおそれがある。</li> <li>荒川が破堤した際には、早期の段階で 1.0～3.0m 未満の浸水が想定されているエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災前の市外への事前避難の徹底。</li> <li>垂直避難が可能な堅牢な建物の確認。</li> </ul>
水災害(内水)	E	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸田市役所周辺は冠水履歴のある道路が集中している。</li> <li>地形的な要因により、大雨や豪雨等で浸水しやすいエリアが点在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水対策の強化による内水被害の軽減。</li> <li>日頃からの防災情報等の注視。</li> </ul>
地震災害	F	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が多く居住しており、100 棟以上の延焼クラスターが発生すると予測もあるため、避難時のリスクが高いエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災に対する安全性の向上。</li> <li>建物の不燃化対策の促進。</li> </ul>
	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のほぼ全域で液状化等の影響による建物倒壊のリスクが高いエリアがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液状化による被害の低減に向けた工法等の技術的対応策の情報提供。</li> </ul>
共通	H	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川氾濫時には、早期に市外への広域避難が必要である。</li> <li>河川における破堤や地震による火災等、災害発生から非常に短時間で被害拡大につながるおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前避難の徹底。</li> <li>戸田市ハザードブック等の情報確認。</li> <li>地域での避難訓練等の防災活動を継続。</li> </ul>

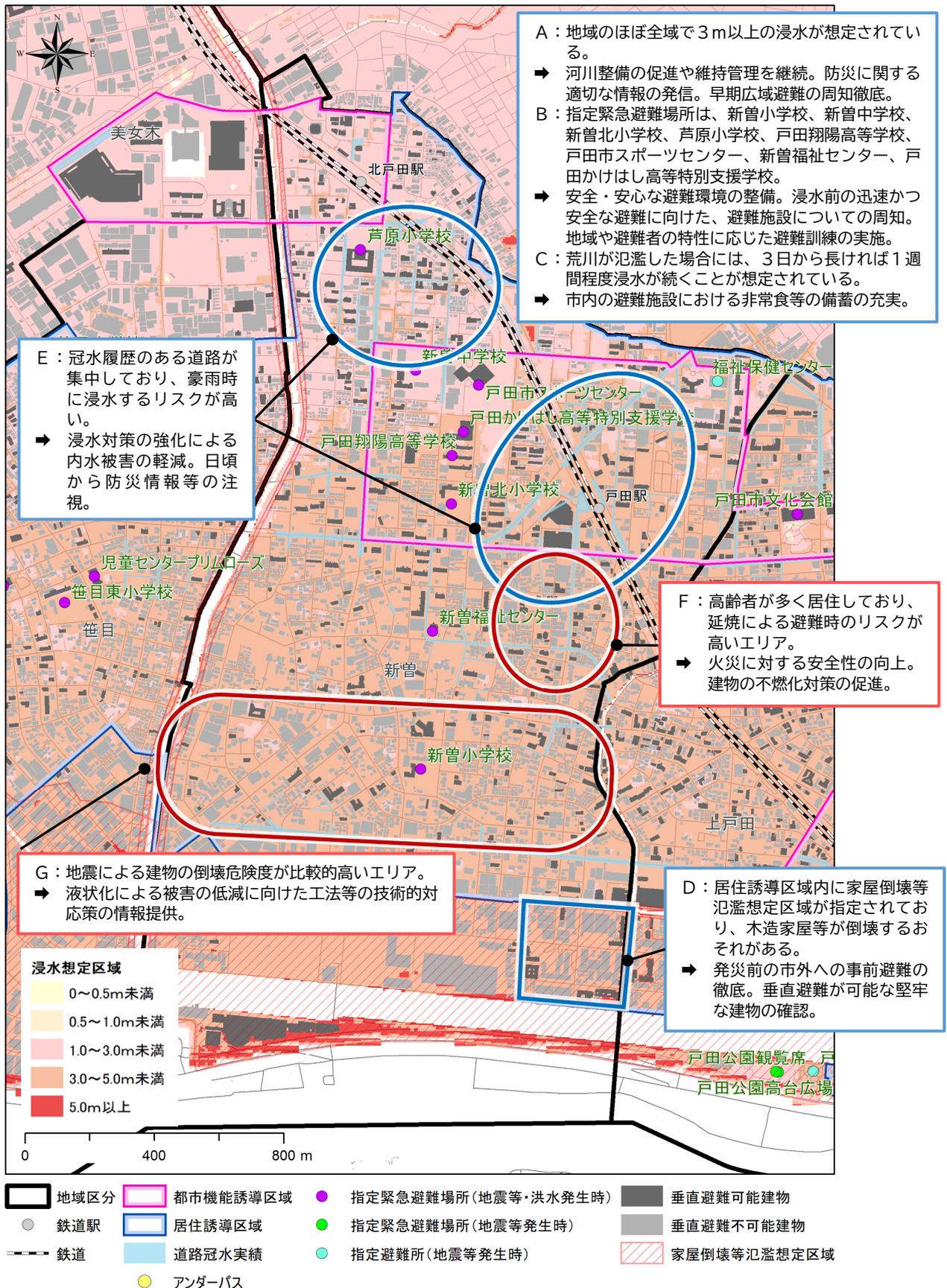
図 5-3 地域別の課題(上戸田地域)



(3) 新曽地域

災害	現状・問題	課題	
水災害(外水)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、地域のほぼ全域で浸水深 3.0m以上と想定されているため、2階建て以下の建物の居住者は逃げ遅れた場合に命の危険がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川整備の促進や維持管理を継続し、災害時にも治水機能を発揮できる環境を整備。</li> <li>防災に関する適切な情報の発信。</li> <li>早期広域避難の周知徹底。</li> </ul>
	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外へ逃げ遅れた際の指定緊急避難場所として、新曽小学校、新曽中学校、新曽北小学校、芦原小学校、戸田翔陽高等学校、戸田市スポーツセンター、新曽福祉センター、戸田かけはし高等特別支援学校が指定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な避難環境の整備。</li> <li>浸水前の迅速かつ安全な避難に向けた、避難施設についての周知。</li> <li>地域や避難者の特性に応じた避難訓練の実施。</li> </ul>
	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、3日から長ければ1週間程度浸水が続くことが想定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の避難施設における非常食等の備蓄の充実。</li> <li>逃げ遅れた住民への備蓄品等の供給。</li> </ul>
	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住誘導区域内に家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、木造家屋等が倒壊するおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災前の市外への事前避難の徹底。</li> <li>垂直避難が可能な堅牢な建物の確認。</li> </ul>
水災害(内水)	E	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域南部の新曽南3丁目、4丁目、氷川町3丁目、芦原小学校の東側や戸田駅周辺は、冠水履歴のある道路が集中しており、豪雨時に浸水するリスクが高くなっている。</li> <li>地形的な要因により、大雨や豪雨等で浸水しやすいエリアが点在している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水対策の強化による内水被害の軽減。</li> <li>日頃からの防災情報等の注視。</li> </ul>
地震災害	F	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が多く居住しており、100棟以上の延焼クラスターが発生するとの予測もあるため、避難時のリスクが高いエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災に対する安全性の向上。</li> <li>建物の不燃化対策の促進。</li> <li>延焼遮断帯の確保及び消防車両の通行空間の確保等による防災性向上。</li> </ul>
	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央通りとオリンピック通りの間のエリアは、液状化等の影響による建物倒壊のリスクが比較的高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液状化による被害の低減に向けた工法等の技術的対応策の情報提供。</li> </ul>
共通	H	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川氾濫時には、早期に市外への広域避難が必要である。</li> <li>河川における破堤や地震による火災等、災害発生から非常に短時間で被害拡大につながるおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前避難の徹底。</li> <li>戸田市ハザードブック等の情報確認。</li> <li>地域での避難訓練等の防災活動を継続。</li> </ul>

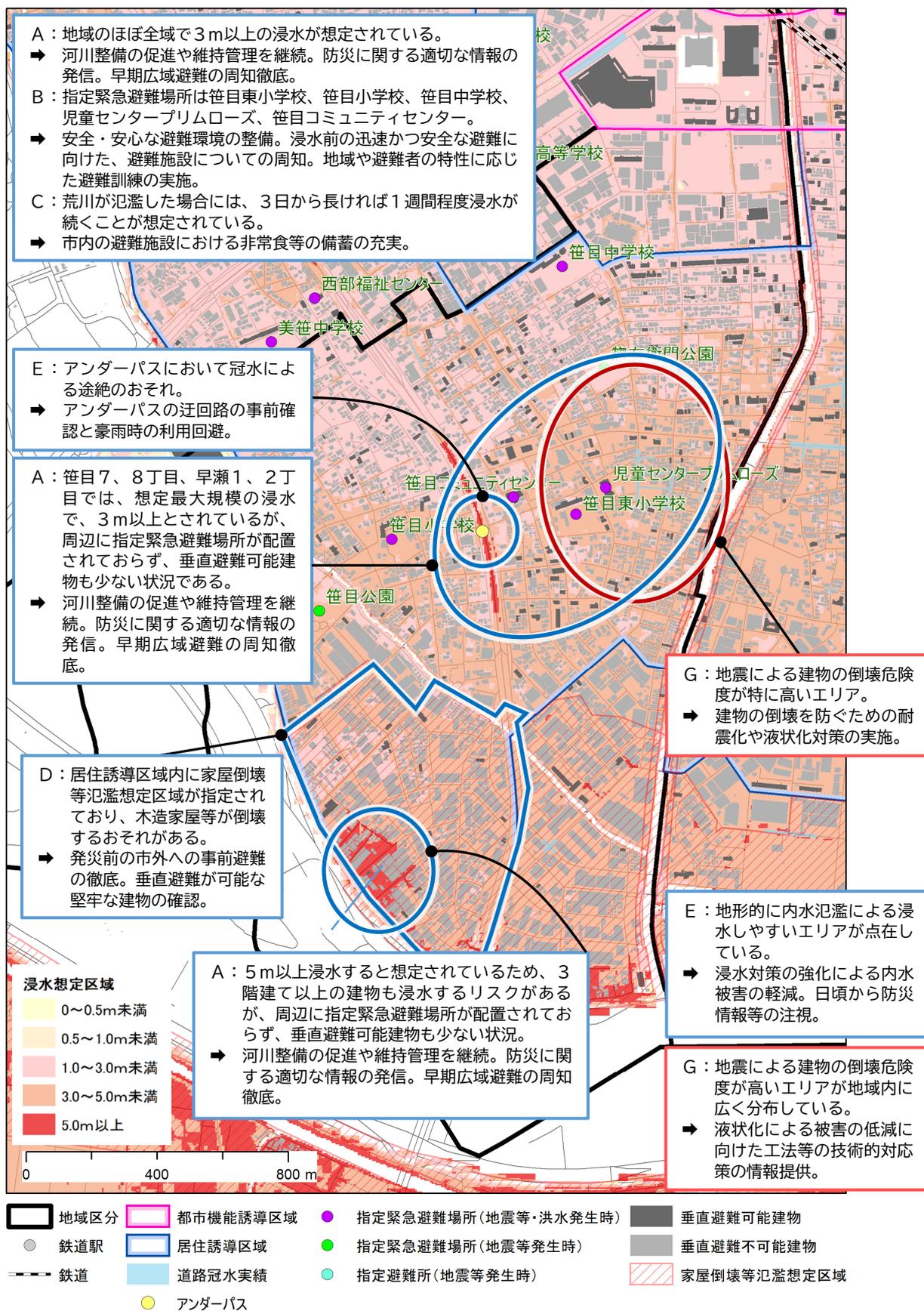
図 5-4 地域別の課題(新曽地域)



(4) 笹目地域

災害	現状・問題		課題
水災害(外水)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、地域のほぼ全域で浸水深 3.0m以上の浸水が想定されているため、2階建て以下の建物の居住者は逃げ遅れた場合に命の危険がある。</li> <li>笹目7、8丁目、早瀬1、2丁目では、想定最大規模の浸水で、5.0m以上とされているが、周辺に指定緊急避難場所が配置されておらず、垂直避難可能建物も少ない状況である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川整備の促進や維持管理を継続し、災害時にも治水機能を発揮できる環境を整備。</li> <li>防災に関する適切な情報の発信。</li> <li>早期広域避難の周知徹底。</li> </ul>
	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>市外へ逃げ遅れた際の指定緊急避難場所として、笹目東小学校、笹目小学校、笹目中学校、児童センター、プレミアムローズ、笹目コミュニティセンターが指定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な避難環境の整備。</li> <li>浸水前の迅速かつ安全な避難に向けた、避難施設についての周知。</li> <li>地域や避難者の特性に応じた避難訓練の実施。</li> </ul>
	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川が氾濫した場合には、3日から長ければ1週間程度浸水が続くことが想定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の避難施設における非常食等の備蓄の充実。</li> <li>逃げ遅れた住民への備蓄品等の供給。</li> </ul>
	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>居住誘導区域内に家屋倒壊等氾濫想定区域が指定されており、木造家屋等が倒壊するおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災前の市外への事前避難の徹底。</li> <li>垂直避難が可能な堅牢な建物の確認。</li> </ul>
水災害(内水)	E	<ul style="list-style-type: none"> <li>地形的な要因により、大雨や豪雨等で浸水しやすいエリアが点在している。</li> <li>笹目3丁目と6丁目の間にアンダーパスがあり、冠水による途絶のおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水対策の強化による内水被害の軽減。</li> <li>日頃からの防災情報等の注視。</li> <li>アンダーパスの途絶に備えた迂回路の事前確認と豪雨時の利用回避。</li> </ul>
地震災害	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼ全域で液状化等の影響による建物倒壊のリスクが比較的高く、特に笹目1、2丁目付近はリスクが高いエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液状化による被害の低減に向けた工法等の技術的対応策の情報提供。</li> </ul>
共通	H	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒川氾濫時には、早期に市外への広域避難が必要である。</li> <li>河川における破堤や地震による火災等、災害発生から非常に短時間で被害拡大につながるおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前避難の徹底。</li> <li>戸田市ハザードブック等の情報確認。</li> <li>地域での避難訓練等の防災活動を継続。</li> </ul>

図 5-5 地域別の課題(笹目地域)



(5) 美女木地域

災害	現状・問題	課題
水災害(外水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川が氾濫した場合、美女木8丁目付近では浸水深 3.0m以上の浸水が想定されているため、2階建て以下の建物の居住者は逃げ遅れた場合に命の危険がある。</li> <li>・美女木1～2丁目の北部は 1.0～3.0mの浸水が予想されているが、垂直避難可能建物が少ないエリアである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備の促進や維持管理を継続し、災害時にも治水機能を発揮できる環境を整備。</li> <li>・防災に関する適切な情報の発信。</li> <li>・早期広域避難の周知徹底。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外へ逃げ遅れた際の指定緊急避難場所として、美女木小学校、美笹中学校、美谷本小学校、南稜高等学校、西部福祉センターが指定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安心な避難環境の整備。</li> <li>・浸水前の迅速かつ安全な避難に向けた、避難施設についての周知。</li> <li>・地域や避難者の特性に応じた避難訓練の実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川が氾濫した場合には、大部分で1～3日未満、一部では3日から長ければ1週間程度浸水が続くことが想定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の避難施設における非常食等の備蓄の充実。</li> <li>・逃げ遅れた住民への備蓄品等の供給。</li> </ul>
水災害(内水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笹目3丁目と6丁目の間にアンダーパスがあり、冠水による途絶のおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水対策の強化による内水被害の軽減。</li> <li>・日頃からの防災情報等の注視。</li> <li>・アンダーパスの途絶に備えた迂回路の事前確認と豪雨時の利用回避。</li> </ul>
地震災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美女木一丁目付近で液状化等の影響による建物倒壊のリスクが比較的高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化による被害の低減に向けた工法等の技術的対応策の情報提供。</li> </ul>
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒川氾濫時には、早期に市外への広域避難が必要である。</li> <li>・河川における破堤や地震による火災等、災害発生から非常に短時間で被害拡大につながるおそれがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前避難の徹底。</li> <li>・戸田市ハザードブック等の情報確認。</li> <li>・地域での避難訓練等の防災活動を継続。</li> </ul>

図 5-6 地区別の課題(美女木地域)

